

## 第4章 高度熟練技能者の技能形成過程

第3章により熟練技能の要素が抽出された。これら熟練技能をどうやって身につけてきたかという「形成過程」を熟練技能の「形成アプローチ」から考えていく。

ある技能についてOJTの面からみると、その技能は入社時から現在までの間に、さまざまな仕事の経験、職場経験からつくられてきている。その中には、失敗、役に立ったこと、工夫なり考えなどがあげられる。

またOff - JTの面からみると、教育訓練、資格取得時の練習等で技能というものが作られてきているとみることができる。

技能形成を、第3章で調査した熟練技能の要素との関連づけから見ていく。フライス盤作業、マシニングセンタ作業の熟練技能要素と併せて、その技能がどういうOJT・Off - JTで習得できたかという関連を調査していく。

いろいろな仕事、教育訓練から、「ができるようになった。」と関連づけられ、それが、現在の熟練技能を形成しているのではないかと考えた。そういう形で、技能形成というものを捉えていこうとするが、実際には、個々の要素と経験した仕事、教育訓練が機械的に対応はしないので、大きな関連づけやその習得の流れを捉えていくこととした。

仕事、教育訓練の両面からの調査により、技能の形成過程を検討し、どのようなOJT、Off - JT訓練の可能性、必要性があるか、同時に現在でもそのOJTが実施可能かどうかの検討に続いていく。この章では調査結果から得られた、各技能者の形成過程を検討する段階までを報告する。

### 第1節 調査票

熟練技能者の技能形成過程を調査するにあたり、以下の項目について整理し実施した。

対象者：各企業機械加工職場での高度熟練技能者といわれている人（第3章での調査対象者11名）

1) 入職後年数

2) 入職時から今までの仕事歴（OJT関連）

（部署・仕事の内容）

今までの主な仕事・部署

特に印象に残った仕事、技能レベルが高まったと感じた仕事、仕事に貢献した内容（工具、ジグ等の考案）

現在、会社にその仕事が有・縮少・無（OJTの場合実施が可能か）

熟練技能要素との関連づけのため調査票では左側に記入する。

3) 訓練、取得資格等歴 (Off - JT 関連)

(資格取得・検定・昇格・職位・研修・技能競技大会等)

資格・技能検定の種類

資格・技能検定を取得するにあたり、相当の時間数を Off - JT で練習などを行ったと考える。

技能習得に役立った研修等、その内容

セミナー、展示会、情報交換の場等 (機械加工分野について)

競技会参加履歴

技能五輪大会、技能グランプリ、社内競技会等練習により、相当の時間数を Off - JT で行ったと考える。

4) 能力成果 (何を身につけたか・能力成果)

熟練技能の要素に対応づけ記入

部署・仕事の内容、資格取得等と熟練技能の要素に関連していると思われる所を矢印をもって表す。

参考資料 8 の記入例にある (5 - 1) 等の番号は熟練技能の要素表に、各技能ごとの番号と対応している。例えば (1 - 2) とあれば最初の 1 は図面検討 (1) を示し次の数字は、図面検討中の何番目の技能要素かということを示している。

その他分野の記入

フライス盤、マシニングセンタ以外の旋盤・仕上げ・溶接等、機械加工関連分野についても記入してもらう。

熟練技能形成過程調査票とその記入例は参考資料 7、8 に掲載。

## 第 2 節 調査結果とそのまとめ

熟練技能形成過程調査票の集計により、以下の資料を作成した。

主な仕事の履歴 (表 4 - 1)

OJT (仕事) を抽出し、各技能者の比較を行った。縦軸に経験年数及び年齢、横軸に 11 名分のデータを並べた。技能者の順番は、A さんから C さんは、中卒後就職と同時に企業内訓練校へ、3 年間の訓練後技能五輪選抜へと進む。D さんから J さんは、高卒を示す。K さんは中卒後職場配属。

フライス盤作業、マシニングセンタ作業を含め、他にどのような仕事を行ってきたかを抽出している。(企業内訓練校を含む)

検定・社内競技会履歴（表4 - 2）

Off - JT（検定、社内競技会、講習会）を抽出し、各技能者の比較を行った。縦軸に経験年数及び年齢、横軸に11名分のデータを並べた。技能者の順番は、表4 - 3と同じ。

どのような資格を取得してきたか。いつ頃取得したか。

調査票より、資格取得等データが18才以降なのでそこからとした。

また、Iさん、Kさんは検定・社内競技会履歴の記入が無かった。

主な仕事の履歴（表4 - 1）について

熟練技能形成の特徴として

1. 企業内訓練校により、基礎技能を習得する機会がある。
2. 技能五輪経験者が技能五輪に参加している企業の調査対象者6名中5名いる。
3. 20代で汎用機械、その後NC機械担当に進んでいる者が多い。
4. 20代に基本的な作業をマスターし、30才前後に困難な仕事を任せることによって、技能者としての成長が見られる。

育成を進めるに当たって

1. NC機械の進出により汎用機械の仕事が少なくなっている。

今後の検討課題としては

1. この調査では、仕事の細かい内容まで捉えきれない。
2. この調査からは、仕事がOJTとしては、計画的であったかどうか伺えない。

検定・社内競技会履歴（表4 - 2）について

熟練技能形成の特徴として

1. 技能検定を取得する割合は多い。また複数取得している。

